

# Visual Basic Expressを使い切る

## コードエディタ編

初音 玲 HATSUNE, Akira

### Level

1 2 3 4 5

### Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- Excel
- ASP.NET
- Other:

↓  
Visual Studio 2005 Professional  
Visual Basic 2005 Express

### はじめに

Visual Studio 2005の最上位エディションであるVisual Studio 2005 Team Suiteから各種ツール群を取り除いたベースエディションであるVisual Studio 2005 Professional Editionと、Visual Studio 2005の入門用エディションであるVisual Basic 2005 Express Editionをデザイン画面の機能を基準にして比較したときには、明確な違いがなかった。

それでは、開発環境のもうひとつの側面である「コードエディタ」の機能を基準にして比較するとどうなるだろうか。

Visual Studio 2005になって、統合開発環境 (IDE) のコードエディタにも、それまでのIDEにはない新機能がいろいろ実装されてきているので、そのあたりを中心に検証してみよう。

### ソリューションの構成

Professional EditionとExpress Editionは、ソリューションの構成が同じ構成になる。そのため、以下の説明の画面は、Professional Edition版のみ掲載しているが、Express Editionでも色合いやタイトルなどの違いを除いて、同じ画面状態となる。

プロジェクトを作成した直後の「ソリューションエクスプローラ」ウィンドウの表示は、図1のようにになっている。プロジェクトがひとつだけのため、ソリューションという表示は存在せず、まるでVisual Basic 6.0までの「プロジェクト」ウィンドウの表示に近いシンプルな内容だ。

では、Form1.vbのファイルの内容をNotepadで開いてみよう。図2にあるように、Visual Basic 6.0以前にあったフォームの定義部分もないし、Visual Basic .NETで見ることができたIDEが自動生成したフォーム定義コードもな

い。それでは、フォームのプロパティなどはどのように保存しているのだろうか。

実は、ソリューションエクスプローラの初期表示では、IDEはプロジェクト

を構成するすべてのファイルを表示しない。ソリューションエクスプローラの [すべてのファイルを表示] ボタンをクリックすると図3のようにプロジェクトに含まれているファイルがい

きなり増加する。この増加部分のファイル「…Designer.vb」こそが、Visual Studio 2005のIDEが自動生成したフォーム定義コードなのだ (図4)。

すべてのファイルを表示すると「自

図1：プロジェクトの初期状態

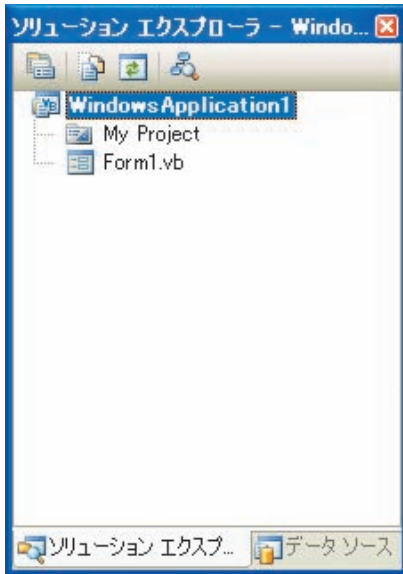


図2：Windows フォームのファイル内容

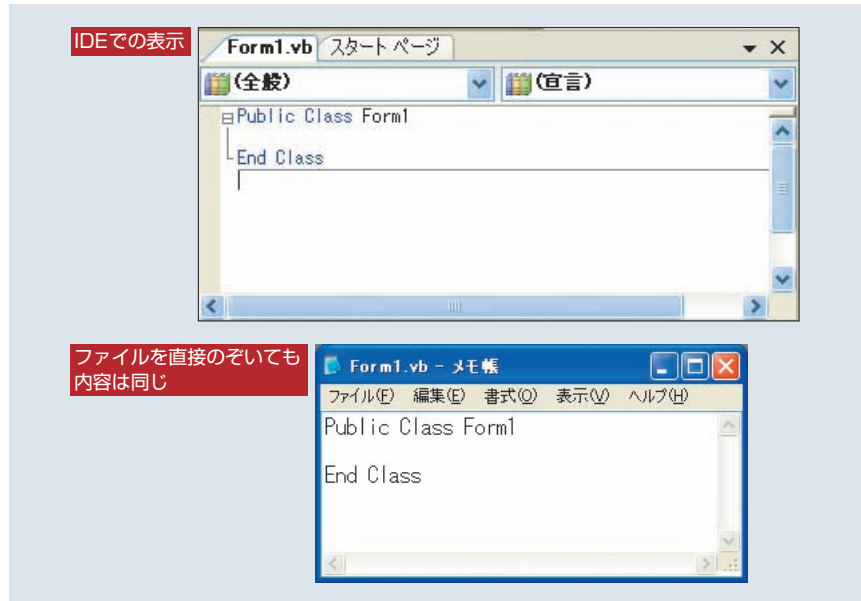


図3：プロジェクトに含まれるすべてのファイル

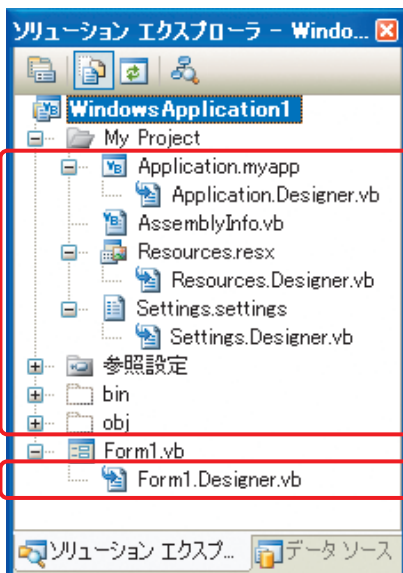


図4：自動生成ファイルの内容

